第４７号　　令和２年９月24日　発行

教育センターだより

南砺市教育センター

「GIGA スクール構想」の実現に向けた ICT 環境整備

南砺市教育センター　所長　瀬戸　広美

文部科学省が進める「GIGA スクール構想」の実現により、全ての小・中学生が一人一台の端末をもつことになります。南砺市では、令和２年度末までに市内全 17 小・中学校の子供たちに一人一台のタブレット型パソコンと各学校の高速大容量通信ネットワーク環境と無線 LAN 環境が整備されます。

これからは、文部科学省が示す「学校における ICT を活用した学習場面」に沿って、タブレット型パソコンを使った授業が日常的に行われるようになります。各教科の指導で ICT を活用することは、子供たちの学習への興味・関心を高め、分かりやすい授業や「主体的・対話的で深い学び」の実現や、個に応じた指導の充実につながります。

南砺市では、すでに平成 27 年度から上平小・平中・利賀小中・井口小中の６校で ICT を活用した遠隔協働学習を進めてきました。電子黒板、デジタル教科書等も早くから導入していただき、令和３年度末には市内小・中学校全ての学級に電子黒板が １ 台ずつ整備されることになっています。他市に比べて大変恵まれた環境にあります。これまで以上に、子供たちも教職員も使い慣れることが大切です。

そこで、南砺市教育センターでは、ICT 機器を活用した学習活動についての動画資料（文部科学省「学びのイノベーション事業の取組」）をまとめた PDF ファイルを作成しました。各学校での校内研修等でご活用していただければ幸いです。また、学習支援ソフト導入検討委員会を立ち上げ、タブレット型パソコンに導入する有効な学習支援ソフトについて現在、検討中です。

教育センターとして、各学校のお役に立てる研修やサポートを全面的に進めてまいりますので、どうぞご協力をお願いします。

第16回南砺市小・中学生科学展覧会

■　日　時　　令和２年９月１２日（土）～１３日（日）　■　会　場　　井波総合文化センター
■　出品数　　小学校より４８点（低学年１９点、中学年１９点、高学年１０点）、中学校より１９点
■　来場者　　約290名

今年度は新型コロナウイルスの影響で夏休みが短縮となり、例年より作品数は少なくなりましたが、短い夏休みにもかかわらず、一生懸命研究に打ち込んだ児童・生徒の作品が展示されました。

表彰式では、審査委員長の平中学校 藤井 一哉校長先生からの講評で、「受賞した皆さんの作品から『楽しさ』が伝わってくる」、「粘り強く実験や観察に取り組めたのはきっと楽しかったからに違いない」というお話があり、受賞した子供たちもうれしそうに聞いていました。来場者の皆さんは子供たちのがんばりに感心しながら、丁寧に作品をご覧になられました。

審査の結果、優秀賞に選ばれた10点の内５点が10月16日（金）～19日（月）に富山市科学博物館で行われる第79回富山県科学展覧会に出品されます。受賞者は、各校配付の「受賞者一覧」をご覧ください。

学校図書館研修会

- 日　時：令和２年８月21日（金）　14：30～16：40
- 会　場：南砺市立井口小学校
- 講　師：富山市立杉原小学校・音川小学校　学校司書　佐藤　千雅子　先生
- 参加者：１５名（小中学校司書助手７名、図書館職員８名）
- 内　容：子供たちの読書活動を推進する学校図書館の充実に向けて

◆ 図書館の環境つくり

- コロナ禍において「安心して利用できる環境づくり」が大切である。
- 子供の図書館利用回数を減らすために貸し出し冊数を増やす、足型を置いてソーシャルディスタンスを意識させるなどの工夫を行った。
- 「紙に付着したウイルスは24時間で死滅する」という研究結果から、返却された本を１日置いておくための“鬼滅のたな”を設置した。
- 地震対策として子供の頭の位置より高い場所に重い本は置かないようにする。

◆ 学校図書館と公共図書館との連携

- 学校図書館と公共図書館、学校図書館同士をつなぐ「学校図書館支援センター」構想について
  近隣では石川県白山市で行われている。
  他の学校の学校図書館からの貸出も可能となる。

◆ 子供への読書の働きかけ

- アニマシオンの実践
  子供たちに「読書の楽しさ」を味わわせるとともに「読む力」を付けることがねらいである。

- 一度読み聞かせを行い、二回目に読み手がわざと読み間違えたところで「ダウト！」と言わせる。
- 絵本『コッケモーモー』を使い、列ごとに鳴き声の役割を分担し、その場面が来たら叫ばせる。
- 表紙からどんな内容か考えさせる。（『ヘンリー・ブラウンの誕生日』）
- 途中まで読んで話の続きを考えさせたり、全部読んだ後に分解した文章や挿絵をつなぎ合わせさせたりする。（『ヨセフのだいじなコート』『うえきばちです』『これはのみのぴこ』）
- 同じ絵本を２冊用意し、一人が読む、もう一人は読み手が間違えたところで「ストップ」をかける。

◆ 実践事例報告

「進んで読書し、情操豊かな子供の育成」（井口小学校　有田 由美 先生）

- 読書活動の日常化や子供たちのアイディアを生かした企画・運営（図書委員会）、本を読みたくなる環境整備の工夫により、読書活動への関心が高まった。

井口小学校の図書室

＜参加者の感想より＞

- コロナウイルス感染防止の方法、「鬼滅のたな」の発想がすばらしかった。安心して利用できる図書室をつくっていけるよう努力したい。
- 地震対策の話を聞いて「はっ」とした。見せ方ばかりを考えて、「これが倒れたら」とか考えていなかったことに反省した。
- 図書館でのイベントに生かしていきたい。
- アニマシオンにとても興味が出た。もっと調べて自分でもやってみたい。
- 表紙から内容を考えようというのは、ぜひ取り入れてみたい。
- 図書館の児童サービスで即実践できるようなものばかりで大変ありがたかった。

外国語活動・外国語科研修会

■ 日　時：令和２年８月28日（金）　13：30～16：30
■ 会　場：南砺市地域包括ケアセンター
■ 講　師：文部科学省　初等中等教育局　視学官　直山　木綿子　先生
■ 参加者：２９名（小学校英語専科教員２名、小学校教員１３名、中学校英語科教員１４名）
■ 内　容：小中学校９か年を見通した外国語教育 part2

◆ 小中連携について

・ 小学校の新学習指導要領について、昨年度、一昨年度は移行期間、今年度から全面実施であるため、中学校に入学してくる子供の「英語力」は年度によって異なる。
　→中学校の先生は、子供たちが小学校で**何を学習してきたか把握しておく**必要がある。

・ 「英語教育実施状況調査」(R1)の結果から、小学校との連携に取り組んでいる中学校の生徒の方が英語力が高いことが分かった。

・ 小中連携を進めるための３つのポイント
　① 情報交換…互いを知る、顔を合わせる、何をしているかを知る
　② 交流…同じ時と場を過ごす、一緒に何かをする（教員間、児童生徒間）
　③ 連携したカリキュラム…指導法の継続性

・ 小中それぞれの学習指導要領の「共通点」と「相違点」を理解する。
　→「共通点」は**「言語活動」の重要性**
　　目的・場面・状況を意識したコミュニケーション活動
　　子供が**思考・判断・表現**する場面をつくる

・ 言語活動を通して指導するために必要なこと
　　子供理解…子供たちの興味・関心、既習表現・語句等を把握する。
　　学習集団づくり…自己存在感、共感的な人間関係、自己決定の場

◆ 学習評価について

・ 学習評価の改善の基本的な方向性
　　児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
　　教師の指導改善につながるものにしていくこと

・ 評価規準について
　　「知識・理解」では、**言語材料を正しく使っているか**を見とる。
　　（目的・場面・状況に応じて内容が適切かどうか）
　　「思考・判断・表現」は「～している。」、「主体的に学習に取り組む態度」は「～しようとしている。」となっており、**同じ活動で一体的に見とることができる**。（切り分けにくい）
　→子供が「聞き取っている」ときは「聞き取ろうとしている」、「伝え合っている」ときは「伝え合おうとしている」と捉えることができる。

・ 英語の発音等、技能的な面については、指導は行うが評価の対象とはならない。
　　単元の目標に記されていることを評価する。

・ **英語嫌いをつくらない**ための評価を工夫する。

＜参加者の感想より＞

・子供の興味や関心のあることを教材にして授業をするよう心がけ、これから実践していきたい。
・中学校では文字についての指導は行われないということなので、６年生の児童にしっかりと身に付けさせておかなければならないと感じた。
・外国語でコミュニケーションを行う際は、目的・場面・状況を意識し、誰が誰に対する活動かを明確にすることが大切だということが分かった。
・中学校の新学習指導要領の実施に向け、評価基準の変更点等が具体的に理解できた。
・１学期の学習評価において、「主体的に学習に取り組む態度」をどう評価すればよいか悩んだが、評価をするためには指導の工夫が必要だと思った。

スタディ・メイト等研修会

■ 日　時：令和２年９月１６日（水）　１４：００～１５：３０
■ 会　場：南砺市地域包括ケアセンター
■ 講　師：南砺市教育委員会　スクールアドバイザー　田中　一昭　先生
■ 参加者：３５名（小学校適応指導員２名、小学校スタディ・メイト２５名、中学校スタディ・メイト８名）
■ 内　容：支援力のパワーアップを目指して

◆ **子供たちの現状**

- 自分に自信がもてない子供、**自尊感情、自己肯定感が低い子供**が多い。
  （全国と比較して、富山県、南砺市の子供に特に多く見られる。）
- 現在の子供の問題となる行動の根本は自尊感情・自己肯定感の低さにある。
- 否定せず**褒めて認めて育てていく**ことが大切
  「100点を求める教育」ではなく、**「0点から始まる教育」**を意識することが大切
- 子供の見方を変えると欠点も長所になる。
  （人見知り→真面目で慎重、謙虚　　おしゃべり→積極的、社交的、表現力がある　など）
- **自尊感情、自己肯定感を高める方法**
  ☆　ありのままの子供を認め、受け入れる。
  ☆　できることを見つめて伸ばす。
  ☆　失敗しても責めず、課題を簡単にして、できることを大切にする。
  ☆　失敗は気にせず、やり直しをすればよいと励ます。
  ☆　子供のがんばりを認める。結果ではなく、がんばった過程を見つめる。
  ☆　出会えてよかったと言葉や態度に出す。

◆ **スタディ・メイト、適応指導員の役割**

- **担任がするべきこととの区別**をしっかりつける。
- 担任が必ずしも正しいとは限らない。そのようなときは教頭先生や特別支援教育コーディネーターに相談する。
- すぐに手を差し伸べるのではなく、まず見守ることが大切。**最終的な目標は子供の自立**にある。

◆ **発達障害の子供への対応**

- **診断名にとらわれない**…一人一人の特性を見極めることが大切
- **達成感を味わわせる**…できそうなことから少しずつ　「できた！」と思える機会を増やす。
- **自尊感情を傷つけない**…行動特性の原因は努力や辛抱の不足によるものではないので叱責しない。
- **特性を許容する**…行動特性を無理に直そうとするのではなく、周りに理解を求め、ある程度許容することも必要

◆ **子供を勇気付けるメッセージ（魔法の言葉）**

- 「勇気をくじくメッセージ」ではなく、「勇気付けるメッセージ」を意識する。
  「早く片付けられ。」→「片付けてくれると助かるな。」（私メッセージ）
  「なんでできんがけ。」→「練習がんばっとるね。きっとできるようになるよ。」（肯定的表現）
  他に「できているところに注目する」「失敗を受け入れる」「個人の成長に注目する」メッセージ

＜参加者の感想より＞

- 日々、何気なく子供たちへかけている声かけ一つで受け取る子供の気持ちが変わるのだと改めて感じた。声かけ一つで子供の自己肯定感を高め、学習意欲の向上や態度の変化が見られると思う。
- 「目の前にいる一人一人の子供をよい子だと思う」という言葉が心に残った。また、「困っている子に、理由ではなく意図を聞く」ことでその子の思いを知り、一緒に乗り越えていけるように感じた。
- 日頃接している子供たちの顔を思い浮かべ、自分の行動を振り返りながら参加した。子供の自尊感情を大切に、明日からの実践に生かしていきたい。
- スタディ・メイト５年目になり、ようやく優しく共感できるようになってきたように思う。「一呼吸おいて支援すること、注意をせずにしていることを認めること、そして何より大切なのは子供の自立であること」と教えてくださった先生の話を思い出し、子供に関わっていきたい。